



グローバルダイヤルプランレプリケーションの設定

- [グローバルダイヤルプランレプリケーションの概要 \(1 ページ\)](#)
- [グローバルダイヤルプランレプリケーションの要件 \(4 ページ\)](#)
- [グローバルダイヤルプランレプリケーションのタスクフロー \(4 ページ\)](#)

グローバルダイヤルプランレプリケーションの概要

グローバルダイヤルプランのレプリケーションを使用して、複数のクラスタリックアップサービス (ILS) ネットワークにまたがるグローバルダイヤルプランを作成します。ネットワーク全体でグローバルダイヤルプランレプリケーションを有効にすると、1つのクラスタのダイヤルプランコンポーネントを設定するだけで、ILSによってILSネットワーク全体にその情報が複製されます。

グローバルダイヤルプランレプリケーションが有効な場合、ILS ネットワーク内の各クラスタが、それぞれのグローバルダイヤルプランのデータを ILS ネットワークにアドバタイズします。このデータには、ローカルで設定されたグローバルダイヤルプランのデータや、他のクラスタから学習したデータが含まれます。グローバルダイヤルプランのデータには、次のようなものがあります。

- ユニバーサルリソース識別子 (URI)
- 代替番号
- アドバタイズパターン
- PSTN フェールオーバー
- ルート文字列
- 学習されたグローバルダイヤルプランデータ
- インポート済みグローバルダイヤルプランデータ

[ディレクトリURI (Directory URIs)]

[ILS経由でグローバルにアドバタイズ (Advertise Globally via ILS)] オプションを選択すると、ローカルに設定されたディレクトリURIの完全なカタログがILSによってアドバタイズされます。URIダイヤリングの設定方法の詳細については、「[URIダイヤルの概要](#)」を参照してください。

代替番号

代替番号によりグローバルにルーティング可能な番号を設定することができ、ILS ネットワーク内のどこからでもダイヤル可能になります。Cisco Unified Communications Manager では、次の2つのタイプの代替番号を作成できます。

- エンタープライズ代替番号
- +E.164 代替番号

アドバタイズパターン

アドバタイズパターンを使用すると、代替エンタープライズ番号または+E.164 番号の範囲をまとめたルーティング手順を作成し、そのパターンを ILS ネットワーク全体に複製することで、ILS ネットワーク内のすべてのクラスタがパターンを認識できるようになります。アドバタイズされたパターンを使用すると、代替番号ごとにルーティング情報を設定する必要がなくなります。アドバタイズパターンが設定されたローカルクラスタでは、アドバタイズパターンを使用しないでください。アドバタイズパターンは、ILS でパターンを認識するリモートクラスタでのみ使用します。また、ILS によってアドバタイズされたパターンに関する PSTN フェールオーバー情報を設定することもできます。

PSTN フェールオーバー

Unified Communications Manager は、PSTN フェールオーバーを使用して、ILS を通じて学習されたパターン、代替番号、またはディレクトリのURIに対して発信されたコールのみを再ルーティングします。Communications Manager は、ローカルに設定されたパターン、代替番号、およびディレクトリのURIに対して発信されたコールについては、PSTN フェールオーバー番号に再ルーティングしません。

グローバルダイヤル プランレプリケーションが有効な場合は、学習ディレクトリURI、学習番号、学習パターンに関する PSTN フェールオーバールールを複製するように ILS を設定できます。発信コールのダイヤル文字列が、学習されたパターン、学習された代替番号、または学習されたディレクトリのURIと一致しており、Unified Communications Manager が SIP 経由でコールをルーティングできない場合、Unified Communications Manager は発信側の自動代替ルーティング (AAR) CSS を使用して、関連付けられている PSTN フェールオーバー番号にコールを再ルーティングします。

ルート文字列

ILS は ILS ネットワークにローカルルート文字列をアドバタイズします。グローバルダイヤル プランデータの各要素は、その要素のホーム クラスタを特定するルート文字列に関連付けられます。リモートクラスタは、ルート文字列と SIP ルートパターンを使用して、ILS ネット

ワーク内のさまざまなクラスタへのルーティングを行います。リモートクラスタのユーザが、ILS を介して学習されたディレクトリ URI または代替番号にダイヤルすると、Unified Communications Manager は、関連付けられたルート文字列と SIP ルートパターンを照合して、SIP ルートパターンで指定されているトランクにコールをルーティングします。

ユーザがクラスタにルート文字列を割り当てると、ILS は、そのルート文字列を同じクラスタ（ローカルに設定されたディレクトリ URI、代替番号、アドバタイズされたパターン、PSTN フェールオーバー情報を含む）に対してローカルである全グローバルダイヤルプランデータに割り当てます。



(注) SIP ルートパターン名にダッシュが含まれる場合、ダッシュ間に数字が含まれていないことを確認する必要があります。ただし、ダッシュが2つ以上ある場合は、文字と数字または文字のみの組み合わせを使用できます。

SIP ルートパターンの良い例と悪い例は次のとおりです。

正しいパターン：

- abc-1d-efg.xyz.com
- 123-abc-456.xyz.com

無効なパターン：

- abc-123-def.xyz.com
- 1bc-2-3ef.xyz.com

学習されたグローバルダイヤルプランデータ

Unified Communications Manager が ILS 経由で学習したグローバルダイヤルプランデータはローカルデータベースに保存されます。ローカルで設定されたグローバルダイヤルプランのデータ以外に、ILS は、ローカルクラスタが ILS ネットワーク内の他のクラスタから学習したすべてのグローバルダイヤルプランのデータをアドバタイズします。これにより、アドバタイズされたすべてのデータが、ILS ネットワーク内の各クラスタに到達します。学習グローバルダイヤルプランのデータには、学習したディレクトリ URI や学習した代替番号、代替パターン、学習した PSTN フェールオーバールール、学習したルート文字列などが含まれます。

Cisco Unified CM Administration で、次のタイプの学習されたグローバルダイヤルプランデータを表示できます。

- [学習代替番号 (Learned Alternate Numbers)]
- [学習エンタープライズ番号と学習 +E.164 パターン (Learned Enterprise and +E.164 Patterns)]
- [学習ディレクトリ URI (Learned Directory URIs)]

インポート済みグローバルダイヤルプランデータ

Unified Communications Manager を使用すると、グローバルダイヤルプランデータを CSV ファイルから ILS ネットワーク内の任意のハブクラスタにインポートできます。Cisco Unified Communications Manager を使用すれば、グローバルダイヤルプランデータを CSV ファイルから ILS ネットワーク内の任意のハブクラスタにインポートできます。ILS では、このインポート済みグローバルダイヤルプランデータを ILS ネットワーク全体に複製します。これにより、Cisco Unified Communications Manager をシスコテレプレゼンスビデオ通信サーバー またはサードパーティのコール制御システムと相互運用することができます。インポートされたグローバルダイヤルプランのデータには、ディレクトリ URI や +E.164 パターン、シスコテレプレゼンスビデオ通信サーバー またはサードパーティのコール制御システムの CSV ファイルから手動でインポートした PSTN フェールオーバー ルールなどが含まれます。



(注) インポート済みデータに含まれているのは、Cisco Unified Communications Manager に手動でインポートされたグローバルダイヤルプランデータだけです。インポート済みグローバルダイヤルプランデータに、ILS を通じて学習されたデータは含まれていません。

グローバルダイヤルプランレプリケーションの要件

の手順に従って、で ILS ネットワークをセットアップします [ILS 設定のタスクフロー](#)。

グローバルダイヤルプランレプリケーションのタスクフロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	グローバルダイヤルプランレプリケーションの ILS サポートを有効にする (6 ページ) 。	参加している ILS 対応のクラスタ間でダイヤルプラン情報を共有できるように、グローバルダイヤルプランレプリケーションの ILS サポートを有効にします。
ステップ 2	代替番号の設定 (6 ページ) 。	(省略可) クラスタ間でダイヤル可能な代替番号を設定するには、代替番号のレプリケーションを設定します。
ステップ 3	代替番号のアドバタイズパターンの設定 (7 ページ) 。	(省略可) パターンを使用して代替番号を集約するには、アドバタイズされたパターンをセットアップして、パターンの

	コマンドまたはアクション	目的
		PSTN フェールオーバールールを指定します。
ステップ 4	PSTN フェールオーバーの設定 (8 ページ) 。	(省略可) 特定のディレクトリ URI または代替番号の PSTN フェールオーバー番号をセットアップするには、特定の電話番号に関連付けられているすべてのディレクトリ URI および代替番号の PSTN フェールオーバー番号として代替番号を指定します。
ステップ 5	学習番号とパターンのパーティションの設定 (9 ページ) 。	(省略可) ILS を通して、ルートパーティションをローカルクラスタが学習する代替の番号およびパターンに指定します。
ステップ 6	学習パターンのブロック (10 ページ) 。	(省略可) ローカルの Unified Communications Manager クラスタが、学習した代替番号または学習した代替番号パターンにコールをルーティングするのを防ぐために、そのクラスタでローカルのブロッキングルールを設定できます。
ステップ 7	学習されたデータに対するデータベース制限の設定 (11 ページ) 。	データベースの制限を設定して、Unified Communications Manager がローカルデータベースに書き込むことができる学習オブジェクトの数を決定します。
ステップ 8	グローバルダイヤルプランのデータをインポート (11 ページ) 。	(省略可) ILS ネットワークを Cisco TelePresence Video Communication Server またはサードパーティのコール制御システムと相互運用する場合は、他のシステムの CSV ファイルから ILS ネットワーク内のハブクラスタにディレクトリ URI のカタログをインポートします。

次のタスク

クラスタ全体でディレクトリのユニバーサルリソース識別 (URI) をダイヤルするには、ローカルクラスタに URI ダイヤルをセットアップします。詳細については、「[URI ダイヤルの概要](#)」を参照してください。

グローバルダイヤルプランレプリケーションの ILS サポートを有効にする

ローカルクラスタのグローバルダイヤルプランレプリケーションの ILS サポートを有効にするには、次の手順に従います。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager のパブリッシャ ノードにログインします。
- ステップ 2 Cisco Unified CM Administration から、[詳細機能 (Advanced Features)] > [ILS 設定 (ILS Configuration)] を選択します。
- ステップ 3 [リモートクラスタとのグローバルダイヤルプランのレプリケーションデータの交換 (Exchange Global Dial Plan Replication Data with Remote Clusters)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4 [アドバタイズルート文字列 (Advertised Route String)] テキストボックスで、ローカルクラスタのルート文字列を入力します。
- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

代替番号の設定

エンタープライズ代替番号または +E.164 代替番号を作成し、電話番号と代替番号を関連付けます。代替番号をダイヤルすると、関連する電話番号に登録されている電話機の呼び出し音が鳴ります。



- (注) 設定したそれぞれの代替番号は、単一の電話番号に関連付ける必要があります。ただし、その電話番号はエンタープライズ代替番号と +E.164 代替番号の両方に同時に関連付けることができます。

始める前に

[グローバルダイヤルプランレプリケーションの ILS サポートを有効にする \(6 ページ\)](#)。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[コールルーティング (Call Routing)] > [ディレクトリ番号 (Directory Number)] を選択します。
- ステップ 2 [ディレクトリ番号の検索と一覧表示 (Find and List Directory Numbers)] ウィンドウから、代替番号を関連付ける電話番号を検索して選択します。

- ステップ 3** [ディレクトリ番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウから、割り当てる代替番号のタイプに応じて次のいずれかのオプションをクリックします。
- [エンタープライズ代替番号の追加 (Add Enterprise Alternate Number)]
 - [+E.164代替番号の追加 (Add +E.164 AlternateNumber)]
- ステップ 4** [番号マスク (Number Mask)] フィールドで、電話番号に適用する番号マスクを入力します。
[代替番号 (Alternate Number)] フィールドには、Cisco Unified Communications Manager が番号マスクを適用した後にはどのように代替番号が表示されるかが示されます。
- ステップ 5** (省略可) 代替番号のローカルルーティングを有効にするには、次の手順を実行します。
- a) [ローカルルートパーティションに追加 (Add to Local Route Partition)] チェックボックスをオンにします。
 - b) [ルートパーティション (Route Partition)] ドロップダウンリストから、ローカルルーティング検索スペースに割り当てられるルートパーティションを選択します。
- ステップ 6** (省略可) 番号パターンを使用してこの代替番号のクラスタ間ルーティングを設定する場合、[保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** (省略可) この代替番号のクラスタ間ルーティングを設定する場合、代替番号の [ILS 経由でグローバルにアドバタイズ (Advertise Globally via ILS)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 8** (省略可) この代替番号に PSTN フェールオーバー番号を割り当てる場合、[PSTN のフェールオーバー (PSTN failover)] ドロップダウンリストから、PSTN フェールオーバーとして番号を割り当てます。
- ステップ 9** [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[代替番号のアドバタイズパターンの設定 \(7 ページ\)](#)。

代替番号のアドバタイズパターンの設定

アドバタイズされたパターンを使用して、エンタープライズの代替番号の範囲または E.i の代替番号を要約します。このパターンを ILS ネットワークに通知して、クラスタ間でパターンに一致する番号への発信を可能にすることができます。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[コールルーティング (Call Routing)] > [グローバルダイヤルプランレプリケーション (Global Dial Plan Replication)] > [アドバタイズパターン (Advertised Patterns)] の順に選択します。
- ステップ 2** [アドバタイズされたパターンの検索と一覧表示 (Find and List Advertised Patterns)] ウィンドウで、次のいずれかを実行します。

- 既存のパターンを選択するには、[検索 (Find)] をクリックします。
- 新しいパターンを作成するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。

ステップ 3 [パターン (Pattern)] フィールドに、番号パターンを入力します。たとえば、54XXX は、54000 ~ 54999 の範囲の番号を要約しています。

ステップ 4 [パターンタイプ (Pattern Type)] フィールドで、[エンタープライズ番号パターン (Enterprise Number Pattern)] または「E.164番号パターン (E.164 Number Pattern)」を選択します。

ステップ 5 ラジオボタンで、PSTN フェールオーバーを適用するかどうかを選択します。

- [PSTNフェールオーバーを使用しない (Don't use PSTN Failover)]
- [パターンをPSTNフェールオーバーとして使用する (Use Pattern as PSTN Failover)]
- [削除桁数および付加番号をパターンに適用してPSTNフェールオーバーに使用する (Apply Strip Digits and Prepend Digits to Pattern and Use for PSTN Failover)] : このオプションを選択する場合、[PSTNフェールオーバー削除桁数 (PSTN Failover Strip Digits)] および [PSTNフェールオーバー付加番号 (PSTN Failover Prepend Digits)] フィールドに数字を入力します。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

PSTN フェールオーバーの設定

ディレクトリ URI または代替番号の PSTN フェールオーバー番号を割り当て、PSTN フェールオーバー番号を ILS ネットワークにアダプタイズするには、次の手順を実行します。リモートクラスタでは、学習ディレクトリ URI または学習代替番号へのコールに PSTN フェールオーバー番号を使用できます。

始める前に

[代替番号のアダプタイズパターンの設定 \(7 ページ\)](#)。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[コールルーティング (Call Routing)] > [ディレクトリ番号 (Directory Number)] を選択します。

ステップ 2 [電話番号の検索と一覧表示 (Find and List Directory Numbers)] ウィンドウから、PSTN フェールオーバー番号を割り当てるディレクトリ URI または代替番号に関連付けられる電話番号を検索して選択します。
が表示されます。

ステップ 3 (PSTN フェールオーバーとして使用する代替番号が存在しない場合は、[ディレクトリ番号の設定] ウィンドウで、割り当てる代替番号のタイプに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。

- [エンタープライズ代替番号の追加 (Add Enterprise Alternate Number)]

- [+E.164 代替番号の追加 (Add +E.164 AlternateNumber)]

ステップ 4 [PSTN のフェールオーバー (PSTN Failover)] ドロップダウン リストで、PSTN フェールオーバーとして使用する代替番号を選択します。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

Cisco Unified Communications Manager は、その PSTN フェールオーバー番号を電話番号に関連付けます。グローバルダイヤルプランレプリケーションは、電話番号に割り当てられるすべてのディレクトリ URI および代替番号の PSTN フェールオーバー番号として、その番号を ILS ネットワークにアドバタイズします。

次のタスク

[学習番号とパターンのパーティションの設定 \(9 ページ\)](#)。

学習番号とパターンのパーティションの設定

パーティションに学習番号と学習パターンを割り当てる必要があります。独自のパーティションを定義することも、事前定義されたデフォルトのパーティションを使用することもできます。Unified Communication Manager は学習代替番号と番号パターンに対して、次の事前定義されたパーティションでインストールされます。

- グローバル学習エンタープライズ番号
- グローバル学習 E.164 番号
- グローバル学習エンタープライズパターン
- グローバル学習 E.164 パターン



(注) NULL パーティションに学習番号または学習パターンを割り当てることはできません。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[コールルーティング (Call Routing)] > [グローバルダイヤルプランレプリケーション (Global Dial Plan Replication)] > [学習した番号とパターンのパーティション (Partitions for Learned Numbers and Patterns)] を選択します。

ステップ 2 学習番号とパターンのパーティションの設定フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

(注) また、パーティションの番号にコールを配置するために、発信者が使用する呼び出し先の検索スペースにもルートパーティションが存在する必要があります。

学習パターンのブロック

ローカルクラスタで、特定のエンタープライズ代替番号、+E.164 代替番号、または ILS を通じて学習された番号パターンに対するコールルーティングを防止するブロッキングルールを設定する場合は、このオプションのタスクを実行します。

コールを学習した番号または学習したパターンにルーティングする前に、ILS はローカルブロッキングルールがダイヤル文字列に一致するかどうかを確認します。ブロッキングルールと一致する場合、Unified Communications Manager はコールをルーティングしません。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration で、[コールルーティング (Call Routing)] > [グローバルダイヤルプランレプリケーション (Global Dial Plan Replication)] > [学習した番号とパターンのブロック (Block Learned Numbers and Patterns)] を選択します。

ステップ 2 次のいずれかの操作を実行します。

- 既存のブロッキングルールを選択して編集するには、[検索 (Find)] をクリックして、します。
- 新しいルートパターンを作成するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。

ステップ 3 [パターン (Pattern)] フィールドに、ブロックするパターンまたは番号を入力します。たとえば、2065551212 へのコールをブロックするのに、206XXXXXXX というパターンを使用できます。

ステップ 4 ダイヤル文字列プリフィックスに基づいてコールをブロックする場合は、[プレフィックス (Prefix)] を入力します。

ステップ 5 コールが特定のクラスタに送信されないようにブロックする場合は、そのクラスタの [クラスタ ID (Cluster ID)] を入力します。

ステップ 6 [パターンタイプ (Pattern Type)] ドロップダウンリストから、ブロッキングルールを適用する方法を選択します。

- [任意 (Any)] : エンタープライズ番号パターンと +E.164 パターンの両方にブロッキングルールを適用する場合は、このオプションを選択します。
- [エンタープライズパターン (Enterprise Pattern)] : エンタープライズ番号パターンにのみブロッキングルールを適用する場合は、このオプションを選択します。
- [+E.164パターン (+E.164 Pattern)] : +E.164 番号パターンにのみブロッキングルールを適用する場合は、このオプションを選択します。

ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。

学習されたデータに対するデータベース制限の設定

データベースの制限を設定して、Unified Communications Manager がローカル データベースに書き込むことができる学習オブジェクトの数を決定します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。
- ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストから、パラメータを設定するサーバを選択します。
- ステップ 3 [サービス (Service)] ドロップダウンリストから、[シスコクラスタ間検索サービス (アクティブ) (Cisco Intercluster Lookup Service (Active))] を選択します。サービスがアクティブと表示されていない場合は、Cisco Unified Serviceability でサービスをアクティベートしたことを確認します。
- ステップ 4 [クラスタ全体のパラメータ (ILS) (Clusterwide Parameters (ILS))] セクションで、[データベース内の学習オブジェクトの最大数 (ILS Max Number of Learned Objects in Database)] サービスパラメータの上限を設定します。
- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。



(注) このサービス パラメータは、Unified Communications Manager が ILS によって学習するデータに対してデータベースに書き込むことができるエントリの最大数を決定します。このサービスパラメータのデフォルト値は 10 万個で、最大値は 100 万個です。

このサービスパラメータを、データベースに保存されている ILS 学習エントリの現在の数より小さい値に設定した場合、Unified Communications Manager は、ILS 学習オブジェクトをそれ以上データベースに書き込みません。ただし、既存のデータベース エントリはそのままです。

グローバルダイヤルプランのデータをインポート

Cisco TelePresence Video Communications Server、サードパーティのコール制御システム、または ILS を実行していない別のシステムと相互運用する場合に、この手順を使用します。ディレクトリ URI、+E.164 パターン、および PSTN フェールオーバー ルールのカatalogを、他のシステムから ILS ネットワーク内のハブ クラスタにインポートできます。ILS が ILS ネットワーク全体に Catalog を複製し、クラスタが他のシステムにコールを発信できるようになります。

始める前に

ダイヤルプラン Catalog を他のシステムから CSV ファイルにエクスポートします。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[コールルーティング (Call Routing)] > [グローバルダイヤルプランレプリケーション (Global Dial Plan Replication)] > [グローバルダイヤルプランレプリケーション (Imported Global Dial Plan Catalog)] を選択します。
- ステップ 2 [インポートしたグローバルダイヤルプランカタログの検索とリスト (Find and List Imported Global Dial Plan Catalogs)] ウィンドウで、次のいずれかのタスクを実行します。
- 結果のリストから既存のカタログを選択するには、[検索 (Find)] をクリックします。
 - 新しいカタログを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3 [インポートしたグローバルダイヤルプランカタログ (Imported Global Dial Plan Catalog Settings)] ウィンドウの [名前 (Name)] フィールドに、インポートするカタログを識別する一意の名前を入力します。
- ステップ 4 (任意) [説明 (Description)] フィールドに、カタログの説明を入力します。
- ステップ 5 [ルート文字列 (Route String)] フィールドに、カタログをインポートしているシステムのルート文字列を作成します。
- (注) ルート文字列は最大250文字長の英数字であり、ドットおよびダッシュを含めることができます。
- ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7 Cisco Unified CM Administration から、[一括管理 (Bulk Administration)] > [ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] を選択します。
- [新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - [参照 (Browse)] をクリックして、インポートするカタログの CSV ファイルを選択します。
- (注) インポートに使用する CSV ファイルが Cisco Unified Communication Manager と互換性があることを確認します。たとえば、バージョン 9.0(1) へのインポートをサポートする CSV ファイルは、バージョン 10.0(1) とは互換性がありません。
- ステップ 8 [ターゲットを選択 (Select the Target)] ドロップダウンリストで、[インポートしたディレクトリ URL とパターン (Imported Directory URIs and Patterns)] を選択します。
- ステップ 9 [トランザクションタイプを選択 (Select Transaction Type)] ドロップダウンリストで、[インポートしたディレクトリ URL とパターンを挿入 (Insert Imported Directory URIs and Patterns)] を選択します。
- ステップ 10 [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 11 Cisco Unified CM Administration で、[一括管理 (Bulk Administration)] > [ディレクトリ URI とパターン (Directory URIs and Patterns)] > [インポート済みディレクトリ URI およびパターンの挿入 (Insert Imported Directory URIs and Patterns)] の順に選択します。
- ステップ 12 [ファイル名 (File Name)] ドロップダウンリストで、インポートするカタログを含む CSV ファイルを選択します。

ステップ 13 [インポートしたディレクトリ URI カタログ (Imported Directory URI Catalog)] ドロップダウンリストで、[インポートしたグローバルダイヤルプランカタログ (Imported Global Dial Plan Catalog)] ウィンドウで名前を付けたカタログを選択します。

ステップ 14 [ジョブの説明 (Description)] テキストボックスで、実行するジョブの名前を入力します。

ステップ 15 次のいずれかの手順を実行します。

- ジョブをただちに実行する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプションを選択し、[送信 (Submit)] をクリックします。
- 所定の時刻に実行するようにジョブをスケジュールするには、[後で実行 (Run Later)] ラジオ ボタンをオンにして、[送信 (Submit)] をクリックします。

(注) [後で実行 (Run Later)] オプションを選択した場合は、ジョブの実行時刻をスケジュールするのに、一括管理ジョブ スケジューラーを使用する必要があります。

Cisco Unified Communication Manager は、インポートしたすべての +E.164 パターンを、グローバルな学習された +E.164 パターン パーティションに保存します。



(注) この手順では、すべてのローカル設定されたディレクトリ URI、+E.164 番号パターン、および関連する PSTN フェールオーバールールを、他のコール制御システムにインポート可能な CSV ファイル形式でエクスポートする方法について説明します。一括管理ディレクトリ Uri およびパターン > のメニューを参照してください。詳細については、ローカルディレクトリの uri とパターンをエクスポートしてください。

